

本人も驚きの初優勝

唯一パープレーで15人抜き

《第48回九州グランドシニア選手権》

～霧島ゴルフクラブ

通算7オーバー 151

乙守 修（フェニックス、70歳）



±0、+7、+2、+4、+1、-4、+7、+1、+4、+6。2016年から昨年まで10年間の優勝スコアである。そして今年が+7。気象条件などが異なるため単純には比較できないが、とにかく今年の霧島GCは選手を苦しめた。2019年の九州ミッドシニア、2024年の九州グランドシニアを制した佐藤憲一（大分）が「難しかった。ジャパんでのいい練習になる」と、うなったほどの難易度だった。2日間でアンダーパーは1人も出なかった。

そんな中で2ラウンドでのベストスコア72をマークしたのが、初出場初優勝の乙守だ。「まさか、まさかです。本人が一番驚いています。別人28号です。優勝なんか考えていないし、ベスト20位でいいと思っていた。死ぬ前にありがたいことです」。上位入賞なんて頭の隅にもなかっただけにジャケットも持参していない。表彰式には知人の上着を借りて臨んだほど。

初日は7オーバー79で16位タイ。本人としては満足のスコア。と言うのも、今年3月に带状疱疹に見舞われ、夏までゴルフができない状態だった。プレーができるようになるため「クラブを振ろう。かあちゃんに『付き合っ』とみえ子夫人とハーフのラウンドを重ねる。霧島GCでの練習ラウンドは1回。その時は80を切れなかった。

ところが、である。最終日に大満足のプレーをする。出だしの1、2番でボギーが行し、6番でもボギー。ドライバーが良くなかった。そこで、この6番から思い切ってティーショットをミニドラに変更。これが奏功する。「バチンと打つだけ。低い球で転がっていく。時には50ヤードも転がる。フェアウエーを外さないからスコアもまとまった」。6番ではスコアを落としたものの、7番から18番までの12ホールを3バーディー、ノーボギーである。

ミニドラ効果はアプローチやパットにも好影響を与える。7番ではカラーからの10ヤードをパターで沈める。9番でも3m、最終18番も2mを決めた。3つのバーディーのほかにもピンチをアプローチでピンそばに寄せた。「ミニドラ、アプローチ、パットの3点セットが良かった」と15人抜きで頂点に笑顔が絶えない。

宮崎市出身で高原畜産高ではバレーボールに熱中。高校時代177cmの身長は、今では2cm縮んだという。ゴルフは30歳から。「自営業を始めて暇ができたから」という理由である。40歳すぎにフェニックス高原CC（宮崎市高岡町、閉鎖）のクラチャンに輝き、フェニックスCCでは3度のクラチャン、九州インタークラブでは同CC2度の優勝メンバーでもある。「ゴルフは楽しいし、かあちゃんと2人で回るのが最高!」。みえ子夫人とは多い時にはひと月10回もラウンド（ハーフ）する。

家族で食肉産業に携わる。長男が牛の飼育に従事し、次男は焼き肉店経営、本人は精肉の販売。乙守がミニドラを武器に日本グランドシニア選手権で『宮崎牛』のブランドを全国に広める。



初優勝の乙守（左から2人目）と上位入賞者

《霧島ゴルフクラブ》



15番ホールから見える桜島

